

事業所名 グループホームいやしの家富田町
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月28日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいづくりアドバイザー
B:現職 介護保険施設勤務
資格・経験 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・岡山駅から徒歩で10分程度の場所にあり、バス停も近く、交通の便が良い。街中にあるグループホームではあるが、すぐ横には西川緑道公園、道路を渡ったところにも公園があり、四季折々の自然の変化を感じることが出来る環境である。歩いていける距離に商店街があり、周辺には公共施設も多く、生活には便利が良い。
- ・ビルの2階、3階、4階に3ユニットを有するホームである。入居者の状況に合わせて共有スペースの家具の配置を変えたり、職員の関わり方に変化を持たせたりと、ユニットごとに違った個性があり、ソファにみんなが集まって職員と話をしたりして過ごすことが多いユニット、入居者のほとんどが居室でテレビを鑑たり手紙を書いたりして過ごすことが多いユニット等、ユニットごとに入居者の特徴や個性を活かした暮らしを支援している。食事については、献立を順番に考えたり、イベントの時には一堂に会したり、夜間に人手が必要な時にはお互いに協力し合うなど協力体制も整っている。
- ・入居者のペースを尊重し、みんなで過ごすことが好きな方や一人で過ごすことが好きな方など、それぞれの性格や状態にも配慮し、入居者一人ひとりに合わせた個別の支援を行っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に改善の余地があると思われる点はなかったが、さらにサービスの質を向上させる意味で、記録類について下記の内容を検討されることを期待する。

- ・個別の記録が介護計画と連動するような書式や記載内容の工夫、行事後の反省や課題等を含めた記録、情報の共有や職員のレベルアップのために研修会の報告書の提出、ヒヤリハット・事故報告書のデータを集計しやすい書式を検討されれば、より充実した記録になると考える。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の「基本的な権利を保護」し、「家庭的な生活」、「生きがいのある生活」を提供することを理念としている。 ・家庭的な環境の中で穏やかに生活していけることをめざしており、入居者が集団生活の中で感じるストレスをできるだけ少なくするように配慮している。そのため、入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、できるだけ今までの生活スタイルが維持できるように入居者のペースを大切にしている。 ・入居者の性格や好みの違いを把握し、入居者一人ひとりのやりたいことを支援できる環境にしていきたいと考えており、入居者一人ひとりの持っている能力を、日々の生活の中で生かせるように働きかけている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は、入居者が不機嫌にならないよう、あせらず、イライラせず、バタバタせず、落ち着いて行動するように心がけている。 ・入居者の帰宅願望が強い時には、話題を変えて気分を反らせたり、他のユニットへ行って雰囲気を変えたり、体調が良さそう時には外出に誘ったりしている。 ・職員は、どの入居者ともゆっくり会話できる時間を作るように心がけている。1対1で話をする時には、居室でゆっくり話そうにしている。また、できるだけ入居者に寄り添い、入居者の思いを引き出すように配慮している。 ・職員は、入居者が一日一日を楽しく過ごせるよう、会話が弾むような話題を提供している。「同じ一日なのだから楽しく暮らさなくてはね」と話す入居者の笑顔が見られた。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの生活歴を把握し、経験が生かされるように支援している。ワープロができる方には、書類に線を書いてもらうなどの協力を求めたり、自叙伝への取り組みを支援している。建築業だった方には戸を直してもらったり、家庭科の教員だった方には縫い物や編み物を教えてもらったり、運送業で運転手をしてきた方には、出かけた時にあえて道を教えてもらうなど、経験が生かせるように取り組んでいる。 ・入居者のプライバシーに配慮し、職員同士で入居者のことを話さなくてはいけない時には、氏名ではなく、居室番号で話すようにしている。家族の希望があれば、個人記録の開示に応じているが、見てもうのはキーパーソンに限定している。 ・電話で家族の連絡先を教えて欲しいという問い合わせがあった時には、連絡先は伝えず、家族から掛けてもらうようにしている。 ・家族によっては、差出人がグループホームになっている手紙を焼く場合もあるため、郵便物を出す時には家族の気持ちに配慮している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関するインシデントレポートがあり、ヒヤリハットや事故が発生した時には、再発防止策について皆で話し合っている。レポートは、しばらくの間申し送り簿に押み、その場にいなかった職員にも伝わるようにしている。 ・グループホーム内部で緊急時の対応法についての勉強会を開催し、外部で開催される研修にも積極的に参加して、サービスの質の向上に向けて知識・技術の習得に努めている 		